



令和六年九月二十八日(土) 十二時半開演 (十二時半開場)

円満井会定例能

於 矢 来 能 楽 堂

〒162-0805

東京都新宿区矢来町六〇
電話 〇三―三三六八―七三二一

全自由席

Sat., Sep. 28 2024 / 12:30 ~ 16:40 / ¥5,000 (¥2,000 for 25years old or younger)

TOMOE

A traveling priest comes to Awazu, a place east of Kyoto by the Biwa Lake. He encounters a woman in tears at a shrine. She asks him to pray for Yoshinaka, who died there in his lost battle. While they are praying for the soul of Yoshinaka in the evening, she disappears into the grass. After a while, the woman comes back in armor. She is the ghost of Tomoe, Yoshinaka's mistress, regretting the fact that she had lived even after Yoshinaka's death because he did not allow her to die with him. She describes her final battle, in which she fought bravely with a long-handled sword and, after the Yoshinaka's death, reluctantly went home with his mementos. The ghost of Tomoe asks the priest to pray for herself so that her agony will be eased, and disappears.

SADO-GITSUNE

Two farmers, one from Sado and the other from Echigo, are on their way to the capital to pay the tax. Their conversation turns into an argument if there are foxes in Sado. Although the Sado farmer does not know what the fox is, he insists it exists and both of them bet their swords on it. The Sado farmer offers a bribe to the tax collector who will be a judge of the bet. The tax collector helps the Sado farmer win in describing the figure of fox and the Sado farmer gets the two swords. On their way back home, the Echigo farmer comes to notice the ruling was a made-up and asks the Sado farmer to imitate the cry of fox. The Sado farmer is in trouble without any assistance this time!

TORU

A traveling priest comes to Kyoto and, in front of the estate called Rokujo-Kawara-no-in, meets an old man carrying pails of sea water to the salt pans. The priest wonders why there are any salt pans in the inland area of Kyoto. The old man explains that Lord Minamoto no Toru used to live here and built a replica of his favorite salt pan facilities in northern Japan to enjoy himself. Since no one after him maintained, it went to ruin. After showing the priest the beauty of the area and nature, the old man draws sea water and disappears. Later in the priest's dream, Toru appears as a noble man and dances recalling his fond memory of glorious days before vanishing again in the moonlight.

- お申し込みは出演能楽師、または金春円満井会までどうぞ。
- 上演中の無断撮影、録音、録画は固くお断り申し上げます。
- 出演者、曲目は都合により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

<主催>

公益社団法人 金春円満井会

komparu-emmaikai

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-27-7 アルファ西荻窪 2F

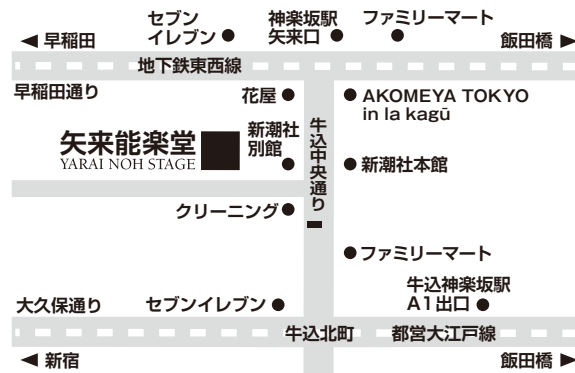
電話 03-6913-6714 FAX 03-6913-6775

ホームページアドレス

<https://www.komparu-enmaikai.com/>

<TYoshikawa/STakahashi>

矢来能楽堂地図



地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩 2分
都営大江戸線牛込神楽坂駅A1出口より徒歩 5分
駐車場がございません。
近隣のコイン駐車場をご利用ください。

巴 (ともえ)

信濃国(現在の長野県)木曾の山家を出て都を目指す僧の一行は、近江国(現在の滋賀県)粟津ヶ原に立ち寄り、神前で涙を流す一人の女と出会った。その様子を不審に思って仔細を尋ねると、女は宇佐八幡の古歌を引いて、神前で涙を流すのは自然の事であるといい、僧達の出自を問う。僧が木曾の出身と答えると、女は「木曾の人であれば粟津ヶ原の神の名を知っているはず。ここに神として祀られているのは木曾義仲である」といい、同郷の縁で礼拝を勧める。やがて夕暮れ時になると、女は自ら亡者であることを明かして姿を消した。僧は里人の話を聞き、先ほどの女は義仲に従った女武者、巴御前の幽霊であったと確信する。

夜になり僧達が読経をしていると、甲冑を着けた武者姿の巴の霊が現れる。女であるが故、主君義仲の最期に御供を許されなかった巴の恨み。その心は執心となって、今もなお粟津ヶ原に残っていた。巴の霊は、義仲の上洛、都を追われ、粟津ヶ原で重手を負った義仲との最期の別れを物語る。やがて、義仲自害の後、遺言に従って形見の守と小袖を身につけ、木曾の里へ落ちのびていく有様を見せると、回向を頼んで消えていく。

修羅物の中で唯一女性をシテとした能。平家物語に題を取り、木曾義仲の愛妾にして一騎当千の兵と名高い巴御前の活躍と悲哀を描きます。長刀を携えての奮戦ぶりや義仲との訣別など見所も多く、緩急のある謡と相まって劇的な展開となっています。
(村岡)

融 (とおる)

今夜は中秋の名月、都六条河原院を訪れた東国方の僧の前に一人の老人が現れる。老人は、内陸のこの地で自らを「汐汲み」と名乗る。ここは左大臣源融の邸宅跡。融は、陸奥千賀の塩釜の景色に憧れ、自らの庭園に再現した。難波から毎日海水を運ばせては、塩焼く様を楽しみ風雅に暮らしていた。しかし融亡き後、庭園を継ぐ者はおらず荒れ地となった、と涙に咽ぶ。僧に問われるまま、見え渡る山々を教え、水面に月を映した海水を汲む様を見せたかと思うと、汐曇りにかき紛れ姿を消した。この老人こそ融の幽霊であった。

僧が旅寝していると、月下に融の霊が在りし日の姿で再び現れる。遊興を極めたかつての庭園が光を集めて蘇り、袖を翻して舞を舞う。やがて月光に誘われ、月の都へと帰っていくのだった。
(柏崎)

「定例能入場券」「カレンダー」「金春月報」などご希望の方はインターネットからご購入頂くことができます。

※下記 QR からどうぞ。



<https://ws.formzu.net/fgen/S38826101/>

金春円満井会の紹介動画を作成しました。

※下記 QR からどうぞ。



前半は子ども向け、後半は一般向けになっております。お稽古のご案内のほか、正会員・賛助会員のご加入、ご寄付もお願いしております。動画をご視聴の上、是非ご検討ください。

<https://m.youtube.com/watch?v=4wRLGPKAYfE&feature=youtu.be>

番組組

解説 森 瑞枝

後シテ／巴御前の霊
前シテ／里女
村岡 聖美

能 巴
ワキ／旅僧 村瀬 慧
大鼓 柿原 孝則
小鼓 幸 信吾
アイ／所の者 高木 謙成
笛 高村 裕

後見 高橋 忍
山井 綱雄
地謡 大橋 佳美 岩松 由実
伊藤 珠美 林 美佐
荒谷 姫菜 安達 裕香
深津 洋子

狂言 佐渡狐
シテ／佐渡のお百姓 大藏彌太郎

アド／越後のお百姓 大藏 章照
アド／お奏者 小梶 直人
後見 木村 直樹

〈二時半頃・休憩二十分〉

仕舞 岩 船 金春 憲和
竜 田キリ 本田布由樹
地謡 金春 飛翔
本田 芳樹
中村 昌弘
岩間啓一郎

仕舞 蝉 丸 道行 安達 裕香
猩々 大澤久美子
地謡 岩松 由実
梅井みつ子
森 瑞枝
深津 洋子

後シテ／源融の霊
前シテ／老翁
柏崎真由子

能 融
ワキ／旅僧 殿田 謙吉
大鼓 大倉栄太郎 太鼓 桜井 均
小鼓 田邊 恭資 笛 一噌 隆之
アイ／門前の者 吉田 信海

後見 金春 安明 井上 貴覚
横山 紳一 本田布由樹 本田 光洋
地謡 中村 昌弘 辻井 八郎
金春 政和 本田 芳樹

附祝言

〈終演予定 四時四十分〉

※コロナウイルス感染対策にご協力お願い申し上げます。

円満井会定例能公演予定

於 矢来能楽堂 十二時半始

令和七年 一月二十五日(土) 歌 占 中村 昌弘 三 輪 安達 裕香

令和七年 三月十五日(土) 高 砂 中野由佳子 千 手 本田 芳樹

■入場料 一般五、〇〇〇円 25歳以下二、〇〇〇円

※令和六年度より、定例能が能二番(入れ替えなし)になります。

※都合により曲目・出演者に変更のある場合がございます。

令和六年度公演